

## リニモ沿線の地域づくりに向けた最近の取組状況

## 愛知県資料

## 愛知県の取組状況

## 1 イベントの実施（平成27年度）

- ①リニモ沿線ウォーキング（※沿線市共同事業）【通年（5～6月、11～12月、2～3月）】
  - ・沿線地域の自然や名所、観光施設等の魅力に触れてもらうリニモ沿線ウォーキングを13回開催。
- ②わくわく体験リニモツアーズ2015（※沿線市共同事業）【夏休み期間の特定日】
  - ・夏休み期間中、沿線施設において中学生以下を対象とした体験講座等を用意し、社会学習等の機会を提供。
- ③リニモ夏休み親子教室【夏休み期間の特定日】
  - ・夏休み期間中、小学生と保護者を対象にリニモ体験乗車と愛・地球博記念公園を会場とした工作教室等を実施。
- ④ぽぷかる芸術祭【1月9日（土）、10日（日）】
  - ・ポップカルチャーをテーマとしたイベントを愛・地球博記念公園で開催し、地域の賑わい創出を図る。

## 2 その他沿線施設における取り組み

- ①「愛・地球博記念公園」【H26年度利用者数：1,571,800人 ※H20年度：1,210,600人】
  - ・愛知万博理念継承事業として、自主イベント「モリコロパーク秋まつり・春まつり」を開催するほか、各種持ち込みイベントの開催支援を実施。リニモ利用による来園の呼びかけ。
- ②「愛知県陶磁美術館」【H26年度利用者数：112,381人 ※H20年度：70,340人】
  - ・常設展や年間5本の企画展・特別企画展の開催や作陶体験施設「陶芸館」の運営を始め、毎月第3日曜日の「ふれあい陶芸体験日」等のイベントを開催。
  - ※ リニモ一日乗車券の持参により、企画展・特別企画展観覧料金が2割引となる。
- ③「あいち産業科学技術総合センター」【H26年度見学者数：3,997人 ※H27.06までの累計：23,662人】
  - ・各種講演会、科学技術教室、一般見学会などを開催。
- ④「愛知県児童総合センター（愛・地球博記念公園内）」【H26年度利用者数：413,340人 ※H20年度：406,949人】
  - ・リニモの歴史や仕組みを学べるリニモコーナーを常設設置。
- ⑤「愛知県農業総合試験場」
  - ・研究成果を県民の皆様に紹介する「農業総合試験場公開デー」を開催（平成27年11月7日）。
- ⑥「あいち海上の森センター」【H26年度海上の森来訪者数：97,532人 ※H20年度：142,040人】
  - ・県民参加の各種体験事業の開催（※H26年度：15回）。
- ⑦「愛知県立大学・愛知県立芸術大学」
  - ・厳格な自動車通学の基準の適用、学生へのリニモ利用を促すパンフレット配布など、啓発活動を実施。愛知県職員等採用試験など県関連試験会場としても積極活用。

◎ 上記イベント・施設等の一体的な広報を行うため、沿線施設を紹介する「リニモ沿線マップ」や沿線で開催されるイベント等を紹介する「リニモ沿線イベントガイド」を作成し情報提供を行っている。

## 3 ハード面の取り組み

## (1) 知の拠点あいち

## ア 事業及び施設の概要

- ・付加価値の高いモノづくり技術を支援するため、最先端の研究開発環境を備えた拠点を整備。モノづくりのイノベーションの基盤となるナノテクノロジーを核に、IT、バイオも融合した研究プロジェクトを展開し、革新的な製造システム、付加価値の高い製品・素材につながる技術の創造を目指す。

## イ 既整備施設

## ①あいち産業科学技術総合センター

【供用開始：平成24年2月14日（火）、運営：愛知県】

- ・大学の研究シーズを企業の事業化につなげる産・学・行政の共同研究プロジェクトを実施。
- ・技術相談や、高度かつ汎用的な計測分析機器を用いた依頼試験、試作品の作製・評価などにより、企業の新技術・新製品開発への取組を支援。



## ②あいちシンクロトロン光センター

【供用開始：平成25年3月22日（金）、運営：（公財）科学技術交流財団】

- ・分子や原子レベルで物質の組成等を解析できる最先端の計測分析施設。産業利用を主目的にした地域共同利用施設として、（公財）科学技術交流財団が整備・運営。

## ③新エネルギー実証研究エリア

【供用開始：平成27年度中、運営：愛知県】

- ・新エネルギー関連技術の実用化を促進するため、実証研究の場を提供するなど、企業の取組を支援。

## (2) 愛・地球博記念公園

## ア 事業及び施設の概要

- ・愛知万博の長久手会場として活用された「愛・地球博記念公園」を、博覧会の理念と成果を継承する21世紀にふさわしい都市公園として整備する。

## イ 近年の整備施設《平成25、26年度》

- ・《平成25年度》あいちサトラボ「農のエリア」、
- ・《平成26年度》防災備蓄倉庫（1棟）、屋外便所改修（2棟）
- ※ 全体計画面積194.2haのうち149.8ha（約77%）を既供用中（H27.4.1現在）

## ウ 今年度の整備施設

- ・第32回全国都市緑化あいちフェア（H27.9～11）の開催に向けて、大芝生広場において1万人規模のコンサートが可能な野外音楽施設を整備中。（8月末完成予定）
- ※この新たな野外ステージ等のオープンの「こけら落とし」として、また9月12日から開催する第32回全国都市緑化あいちフェアの「前夜祭」として、地元愛知・名古屋を代表するアイドルグループ・SKE48のコンサートを9月10日に開催予定
- ・また、リニモ公園西駅からのアクセス向上を図るため、歩行者専用の「公園西駅口」ゲートを8月13日より利用開始した。

#### 4 その他の取り組み

##### (1) 「パーク&ライド駐車場」の運営など

###### ア 目的

- ・ 公共交通の利用促進と愛知万博の理念である「環境」活動の推進を図る観点から、リニモへの通勤・通学転換対策を実施することによりリニモ沿線の公共交通機関の利用を促進する。

###### イ 実施内容

###### ①パーク&ライド駐車場の運営

- ・ 愛・地球博記念公園駅北側：246台分（契約者数254名、平成27年6月末実績）

###### ②リニモ沿線レンタサイクル

- ・ 通勤・通学者及び沿線観光・レジャー目的でのリニモ利用者を対象に、自転車を無料貸し出し（合計70台）。

※ 杵ヶ池公園駅近く自転車ジョイ長久手店にて貸し出し。

現在（平成27年6月末実績）の通勤・通学利用は、平均貸出台数49.5台/日、最大貸出台数は57台/日（6月）。

また、観光・レジャー利用は、4月～6月末までで延べ33台の貸出実績

###### ウ 今後の予定

- ・ 利用拡大に向け、引き続き啓発活動などを行う。

##### (2) リニモ沿線地域における渋滞問題への対応

###### ア 概要

- ・ リニモ沿線地域においては、これまでもモリコロパークでの大イベント開催時に周辺道路が渋滞し問題となっているが、今後、全国都市緑化あいちフェアの開催や大規模商業事業者の出店が予定され、さらなる交通渋滞の発生が懸念される。
- ・ そこで、関係機関が一体となって対処するため、リニモ沿線活性化ワーキンググループにおいて、平成26年1月から県建設部門を含めた関係者間で、リニモ沿線地域の渋滞対策について情報の共有及び対応の検討を開始した。

平成26年度は3回の会議を開催し、平成27年度は8月20日に開催。

（※ワーキンググループ事務局：県地域政策課）

###### イ 今後の取り組み予定

- ・ 関係機関で実現可能な対応を検討し、実施に向けた調整を行う。

##### (3) 第32回全国都市緑化あいちフェア

###### ア 概要

- ・ 愛知万博から10周年を記念し、本年、万博会場であった愛・地球博記念公園をメイン会場として「第32回全国都市緑化あいちフェア」を開催する。開催期間は平成27年9月12日から同年11月8日までとし、期間中の来場者は約70万人を見込んでいる。

###### イ 取り組み内容

- ・ 現在、9月の開会を控え、会場では魅力ある花壇づくり、出展展示物等の設置作業がピークを迎えている。
- ・ 本年6月には、あいちフェアの目玉企画として、スタジオジブリとタイアップした「ジブリの大博覧会」の開催も決定し、準備を進めている。
- ・ 一方で多数の来場者が想定される日における周辺道路の渋滞緩和のため、フェア開催期間中における普通自動車の駐車料金の変更、臨時駐車場の整備を行う。また、パークアンドライドでの来場、リニモ・名古屋市営地下鉄等の車内広告、記念切符の販売など公共交通機関での来場を促進するPR・特典などの対策を実施する。

###### ウ 会場計画図

